令和6年度 第2回 東かがわ市地域公共交通活性化協議会協議要約

日時 令和7年2月3日(月) 15:15~16:30

場所 東かがわ市引田公民館3階ホール

■議事次第

2 今年度の取組み

○事務局より資料1に基づき計画の進捗状況を、資料2に基づきモーダルミックス事業とタクシーチケット事業の実施状況をそれぞれ説明した。

委員) 資料1の11頁の図では、人口が減少しているが利用者数は回復しているようにも見えるが詳細の説明を。

事務局) 図1・2ともに計画策定時の国勢調査ベースの人口推計予想をもとに、実利用者数から一人あたりの利用回数を算定している。令和6年度の数値については人口推計予想をもとに計画策定時点での目標値を記載している。実際の利用者数は令和5年度までの数値で、コロナ前の水準までは回復しておらず目標値とは乖離がある。

委員) モーダルミックス事業は今後どうするのか。三本松高校生の利用が多いことから、学生の流出を防ぐという点からも有効だと思われる。

事務局) 今後も継続する方向で検討している。

会長) コロナ前から比べると利用者数は減少しているとはいえ、路線バスは改善されている。令和4年度に実証実験として実施し、今年度から制度化されたモーダルミックス事業によりバス利用が選択肢として浸透したことも影響しているかもしれない。東かがわ市は県内でも人口減少幅が大きく、鉄道も減便傾向にある中で、利便性向上のためモーダルミックス事業に取り組んでいることなどは前向きに見てもいいのではないか。

三本松高校の生徒数の減少やさぬき市での高校の統合なども考えると、参考データとして15歳未満の人口があればよりわかりやすい。次回は検討してほしい。

委員) タクシーチケットの地域別の利用状況、三本松地区の状況はどうか。またこういった地区は利用が多いなど特徴があれば教えてほしい。

事務局) タクシーチケットの利用状況としては全域では申請率が約30%に対して三本松地区は38%と少し高い。地域毎の利用特性については、明確な答えは出ていないが、山間部の方が利用率が低い地域が多いことは確認できている。

委員) 地区別の利用者数など詳細は。

事務局) 旧町毎の利用者数は今持ち合わせていない。次回以降にお示ししたい。

委員) 地域でも移動手段の確保を検討しており、どれくらいのニーズがあるかなどを知りたい。午前中に集中しているがタクシー事業者は対応できているのか。

事務局) これまでの実証実験の結果や全国的な傾向からも午前中に通院や買い物をすませたいというニーズが強い。

委員) 午前中の送迎依頼にも問題なく対応できている。

委員) 人によっては早々にチケットを全て使う人もいれば申請してもあまり使わない人もいる。制度を知らない利用者もいるため、事業途中での周知を行うなど利用促進してほしい。

会長) 一般的にタクシー利用は午前中から 14 時頃に集中する傾向がある。チケット利用の傾向としてもともとタクシーを利用していた方がチケットを利用していると考えられるがどうか。

事務局) 具体的な根拠数値等はないが、タクシー事業者へのヒアリング等ではそういった傾向が強いと聞いている。

会長) タクシーを使っていない人は大半の移動を車で行っており、車に乗らなくなったら公共交通・タクシーと考える傾向があるが、100m 歩くのが難しい人を想定した場合、買い物など目的地での移動を考えると、そもそも公共交通で対応することは難しく、介護や福祉での支援が必要になる。地域からこうした相談があった場合、市ではどこが窓口となるのか。

委員) 社会福祉協議会では地域との意見交換の機会を定期的に設けており、その中で移動に関する意見もあがっている。福祉や介護の面での情報については社協に入ってきてやすいと思われる。

チケットの利用が中心部の三本松で多く、山間部で少ないというのは、山間部から病院等にタクシーを使うとチケットを使っても追加の費用負担が大きく、家族等に送迎を頼んでいるケースが多いと思われる。三本松や五名の協議会でも移動支援がテーマになっており、丸亀市の川西地区への視察も実施したが、実現は難しいのが現状。

委員) 視察先の取組みを地域でも実践したい気持ちはあるが、車両やドライバーの確保など課題が多く実現は難しい。

会長) 社協からの意見等を情報共有できる体制づくりが必要。丸亀市の岡田地区のケースでも地域に強力なリーダーがいたことが大きかったと聞く。

運転士の確保は大きな課題で、高松市では運転士確保の支援もしている。タクシー運転士でも人を乗せての運転は緊張すると聞く。一般ドライバーに頼む場合はなお大きい負担となる。地域のつながりで近所の人を輸送できるのはいいが、ボランティア輸送ともなると安全面や責任の所在など課題も多く適切に検討できる場を設ける必要がある。

委員) 観光分野との連携について、来年度には瀬戸内国際芸術祭の開催も控えており、市にとってもチャンスと思われる。瀬戸芸に対して、交通の面で現在検討している内容があれば伺いたい。

事務局) 瀬戸芸に際しての交通施策としては、臨時の航路やバスによる送迎を検討していると聞き及んでいる。

委員) 航路とは具体的にどことどこを結ぶ便を想定しているか。

事務局) 小豆島と引田地区を結ぶ便と聞いている。

委員) 小豆島は瀬戸芸での展示も多く、そこからの誘客効果も期待できる。前向きに検討してほしい。

委員) モーダルミックス事業について、利用者にとっては実質的に増便となる施策。鉄道だけで便数を増やすことは難しい状況のため、こうした取組みに参画できることは非常にありがたい。ぜひ継続をお願いしたい。

委員) モーダルミックス事業は全国的にも珍しい取り組み。路線バス側としても継続をお願いしたい。

委員) 引田駅の整備について、従前のように飲食店は入るのか。また、駅舎の改修後に駅前でのイベント等の予定はあるか。

事務局) 引田駅舎には待合とトイレを設置する。飲食店等の設置は行わない。イベント等については、現在のところ予定はないが、地域などから要望があれば都度 JR 側とも調整したい。

会長) 大きな取組みではないかもしれないが、小さな取組みは様々行われている。目標数値の達成には至っていない部分もあるが、今後どうしていくかを考えながら次に繋がるようそれぞれの事業からデータを収集し今後の取組みに活用するようにしてほしい。また、気軽に情報共有するためにも

次年度以降は本会を年に3回程度開催できればと考えている。

3 来年度の取組みについて

○来年度の取組みについて、事務局より既に実施している事業の継続する予定であること、また、資料3に基づき新規事業として二種免許取得支援事業を検討していることを、また、来年度が市地域公共交通計画の更新時期にあたるため、本会でも検討いただきたいことを説明した。

委員) 計画の見直しについて、現計画では令和7年度までが各種の目標値だったと思うが、来年度に新しい取組みも含めて検討していくということによいか。

事務局) 来年度が現計画の最終年度となるため、計画更新にむけて現計画の目標値の達成状況もふまえながら、事業内容の見直しの検討も予定している。

委員) 路線バスへのキャッシュレス決済の導入に向けた検討を行っている。決済手段は多数あるが、運転士の事務負担も考え、まずはクレジット決済の導入を予定している。内容が決定次第、本会でも報告する。

会長) 今導入している決済手段はIruCaカードだったと思うが、10カードには対応しているか。

委員) 10カードには対応していない。

4 その他

委員) 三豊市で自動運転の実証実験が始まったが、東かがわ市ではこうした取組みの予定はあるか。

事務局) 自動運転について具体的な検討は行っていない。

委員) 同じ規模感の自治体なので参考にしてみてもどうか。

会長) 自動運転については、国内で車両が製造されておらず、データ管理の面などで課題があると考えている。先進地の米国でも全ての州で導入が進んでいるわけではない。自動運転に否定的というわけではないがいろいろな方向から検討が必要とは思っている。

全国的にも自動車が運転できなくなったら公共交通というイメージが先行しているが、実際は免許返納する時には既に安全に一人で歩けない状態になっており、移動に介助等の支援が必要となるケースが多い。健康でないと公共交通は使えないので、健康増進にどう取り組むかという視点も必要。また、次世代への取組みも重要。子どもの頃から通学などで路線バスを使う習慣があった地域は路線バスが残っていきやすい傾向がある。モーダルミックス事業のように若い世代に公共交通の利用促進を行うことで、将来的に自動車に依存し過ぎない習慣の形成につながればと思う。上手く路線バスや鉄道などを利用していけるような取組みを継続して検討したい。

三豊市の実証実験では交通量が少ないと想定していた場所で実施したが、それでも低速で走る自動運転車に一般車からのクレームや追い越しなどによる危険な場面も出ていると聞く。トラブル回避のためにも本来は道路管理者と連携し路面標示を行うなどを検討することが重要になる。そうした点からも道路管理者を含め様々な関係者が集まる本会での連携や情報共有が重要となるので、引き続き何か情報があれば本会でも報告してほしい。

以上